

みやまの里

(農)東山茶業組合
掛川市東山一八二一―二
第70号 令和7年7月

抹茶の原料・碾茶(てんちゃ)とは？

近年、抹茶は世界中で大きなブームを迎えています。抹茶は栄養価が高く、海外においても「抹茶は健康に良い」と評価され、輸出市場が成長しているのです。またカフェやスイーツ、お菓子などに多く利用されていますが、海外でも同様に使われ、抹茶のアレンジのしやすさが海外で受け入れられています。

そして当茶業組合でも一茶と二茶共に碾茶の被覆栽培に力を入れました。摘採前の茶園を寒冷紗(かんれいしゃ)というネットで覆い、日光を遮断して栽培することで、旨味成分であるテアニンを豊富に含んだ茶葉に育てます。かぶせ茶は十日間程ですが、碾茶はより長い期間二十日間以上被覆します。すると大変深みのある濃い色の茶葉になります。

製造施設は当組合にはないので専用工場に持ち込み製造を依頼します。てん茶の製造工程は揉まずにひたすら乾燥させ、茎や葉脈を除くと青のりのような形状



LINE友だち登録でお得

ネット限定

7月～8月末 花みずき3袋セット

商品カテゴリ⇒お得なセットから入る

通常¥2760のところお得なセットで¥2610、さらに友達登録で1セットにつき¥100お得！初めて友達登録すると「300円OFFクーポン」



が届きます。表示されるクーポン枠にクーポンコードを入力して下さい。300円割引は初回のみになります。もしくは上記1セットにつき¥100割引します。

になります。これを石臼あるいは微粉碎機で挽くと抹茶になります。高級品は茶道のお点前に使われます

玉露と同じようにヨシズやワラといった伝統資材もありますが、最近では多くの被覆資材も開発されております。資材代・被覆する手間代等経費はかさみますが「煎茶よりてん茶」と言われる時代の移り変わりに合わせて茶業の取り組みを変化させて行かなくてはならないでしょう。



被覆資材の寒冷紗
1巻50mを50本以上使用
茶園45a に被覆しました

日本へ茶を伝えた栄西禅師のお話

四月五日は入学式の定番日ですが、地元粟ヶ岳頂上では毎年この日、日本に「茶樹」と「茶をたしなむ文化」を広めた「茶祖 栄西禅師」の供養祭が行われるのです。緑茶が日常の飲料となったのも栄西さんの功績だったようで、茶業関係者には誠にありがたいことです。

茶商・JA・役所関係などの招待客、さらに地元茶農家などお茶関係者などが集まり、供養祭が行われます。

そしてここ粟ヶ岳頂上は掛川の桜の名所でもあります。折しも桜も満開時ですのでお花見をしつつ、東山の末長い茶業の発展を祈願しました。標高五三二Mの低山ですが晴れた日にはここからは太平洋、東には駿河湾・伊豆半島、富士山も拝見でき素晴らしい眺望です。麓から一時間のハイキングは人気で賑わっています。



2025年4月桜も満開！



頂上から見守る栄西禅師像

